

杉並総合 高等学校 令和6年度（1 学年用） 教科 家庭科 科目 家庭基礎

教 科： 家庭科 科 目： 家庭基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ 実教出版 家庭基礎 気づく力 築く未来 ）

教科 家庭科 の目標： 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身につけるようにする。

【知 識 及 び 技 能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかわりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。

【思考力、判断力、表現力等】 生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。

【学びに向かう力、人間性等】 さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

科目 家庭基礎 の目標： ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかわりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 これからの人生について考えてみよう 【知識及び技能】自分自身について考えるワークシートや将来についてのレポートなどを通して、自分や、人の一生についての考えをまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等】人生の各ライフステージの特徴と課題について知り、少子高齢社会、男女共同参画社会などの社会状況を考えながら、自分の生活や将来について考えを深め、発表などを通じて考えを表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲を持って取り組もうとしている。	1節 自分の未来予想図を描こう～生涯発達と発達課題～ ・ライフステージにおける発達段階について学び、現在の自分の課題を考える。 2節 これからの人生をデザインする ・人生をデザインするうえで必要な準備を考え、シミュレーションする。 ・こんにちの社会背景を踏まえて、具体的に生涯にわたる生活設計を考える。	【知識及び技能】自分自身について考えるワークシートや将来についてのレポートなどを通して、自分や、人の一生についての考えをまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等】人生の各ライフステージの特徴と課題について知り、少子高齢社会、男女共同参画社会などの社会状況を考えながら、自分の生活や将来について考えを深め、発表などを通じて考えを表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲を持って取り組むことができる。	○	○	○	5
	第2章 自分らしい生き方と家族 【知識・技能】青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解できる。 ・生活にかかわる労働の意義、また、現在の労働環境などについて理解できる。 ・現在の生活時間の状況をふまえ、生活時間と労働との関係について理解できる 【思考・判断・表現】・図表などから家族の形、家庭のあり方や役割について、また時代とともに変化した背景について読みとることができ、現在の家族・家庭のあり方や役割について考えを深め、表現することができる。 ・家族・家庭に関する課題・問題点について、社会的な制度、労働環境や雇用情勢などの背景も考慮しながら原因を推測し、解決へ導くための考えをまとめ、討論やレポートを通して発表することができる。 ・家族の変遷や家族に関する意識の変化、さらには、現在の家族の抱える問題・課題などについて、新聞や書籍などから情報を収集し、自らの考えをまとめることができる。 【学びに向かう態度、人間性等】男女共同参画社会など、現在の社会的状況について、興味を持って知ろうとする態度がある。労働の意義や役割、労働時間と生活時間とのかわりについて関心を持ち、現在の家族・家庭が抱える課題を見いだそうとする。	1節 自立と共生 ・「大人」と自分を比較し、不足している点を考える。 ・青年期の特徴について学ぶ。3節 共に生きる家族・「家族」の条件とは何か考える。 ・家族のライフイベントについて考える。 ・家族が抱える問題を踏まえて、家族を支えるしくみについて具体的に考える。 ・これからの自分自身と社会のあり方を展望する。 2節 ライフキャリア ・働く意義とどのような仕事（職場）で働きたいと思うかを考える。 ・職業労働と家事労働の違いをまとめる。 ・職業生活や家庭生活における時間の使い方について考える。 3節 共に生きる家族 ・「家族」の条件とは何か考える。 ・家族のライフイベントについて考える。 ・家族が抱える問題を踏まえて、家族を支えるしくみについて具体的に考える。	【知識・技能】青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解できる。 ・生活にかかわる労働の意義、また、現在の労働環境などについて理解できる。 ・現在の生活時間の状況をふまえ、生活時間と労働との関係について理解できる 【思考・判断・表現】・図表などから家族の形、家庭のあり方や役割について、また時代とともに変化した背景について読みとることができ、現在の家族・家庭のあり方や役割について考えを深め、表現することができる。 ・家族・家庭に関する課題・問題点について、社会的な制度、労働環境や雇用情勢などの背景も考慮しながら原因を推測し、解決へ導くための考えをまとめ、討論やレポートを通して発表することができる。 ・家族の変遷や家族に関する意識の変化、さらには、現在の家族の抱える問題・課題などについて、新聞や書籍などから情報を収集し、自らの考えをまとめることができる。 【学びに向かう態度、人間性等】主体的に学習に取り組む態度】男女共同参画社会など、現在の社会的状況について、興味を持って知ろうとする態度がある。労働の意義や役割、労働時間と生活時間とのかわりについて関心を持ち、現在の家族・家庭が抱える課題を見いだそうとする。	○	○	○	5

	第7章 衣生活をつくる 【知識・技能】衣服の素材の種類や特徴について知識を身につけ、用途に応じてどんな衣服が適切か理解できる。・衣服材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識を身につけることによって、衣服を適切に選択し、管理することができる。 ・衣類の購入から廃棄まで、計画的な衣生活を営む知識を身につけている。 【思考・判断・表現】衣服の用途によって、適切な衣服素材を考え、判断することができる。衣服材料・衣服整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】自分の衣生活をとりまく状況について関心を持ち、衣生活の改善・向上に積極的に取り組もうとする。	1節 人と衣服のかかわり・季節ごとの着こなしについて考える。 ・衣服の起源や歴史、風土に適した衣服について知り、人はなぜ衣服を着るのか考える。 ・衣服が持つ機能や安全性などについて学ぶ。 2節 衣服の素材の種類と特徴 ・快適な衣服の特徴や機能について考える。 ・暮らしの中での衣服素材の性能と改善について学ぶ。 3節 衣服の選択から管理まで・衣服の入手から処分までの流れを学び、衣生活の計画を考える。 ・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について学ぶ。	【知識・技能】衣服の素材の種類や特徴について知識を身につけ、用途に応じてどんな衣服が適切か理解できる。・衣服材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識を身につけることによって、衣服を適切に選択し、管理することができる。 ・衣類の購入から廃棄まで、計画的な衣生活を営む知識を身につけている。 【思考・判断・表現】衣服の用途によって、適切な衣服素材を考え、判断することができる。衣服材料・衣服整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】自分の衣生活をとりまく状況について関心を持ち、衣生活の改善・向上に積極的に取り組もうとする。	○	○	○	10
	第7章 衣生活をつくる 【知識・技能】不要となった衣類について、リサイクルに回す、つくりかえるなど、実生活において実践することができる。材料の選択、日常の衣服管理の方法を習得するとともに、基礎縫いなどの縫製技術を身につけ、日常着の管理ができる。 【思考・判断・表現】現在の衣生活をとりまく状況について、自分の衣生活を振り返りながら、課題を導き出すことができる。 【学びに向かう力、人間性等】基礎縫いの確認のための実習や、衣服調査などにおいて、積極的に取り組もうとする。	4節 持続可能な衣生活をつくる ・環境に配慮した衣生活について世界の動向を学び、自分たちができることを考える。 5節 衣服の構造・デザイン ・日常着を製作する。 ・衣服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける。	【学びに向かう力、人間性等】不要となった衣類について、リサイクルに回す、つくりかえるなど、実生活において実践することができる。材料の選択、日常の衣服管理の方法を習得するとともに、基礎縫いなどの縫製技術を身につけ、日常着の管理ができる。 【思考・判断・表現】現在の衣生活をとりまく状況について、自分の衣生活を振り返りながら、課題を導き出すことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】基礎縫いの確認のための実習や、衣服調査などにおいて、積極的に取り組もうとする。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
夏休み	ホームプロジェクト ・生活の中で、よりよく暮らすための解決方法を考える。	・生活をあらためて見直し、解決することを検討する。 ・具体的な解決方法を探り、実際に改善する。	【知識・技能】・家族の生活時間や、食・衣・住に関すること、ボランティア活動など、自分で関心のあること、また生活から見えてくる課題を探すことができ、それに対する具体的な解決方法を考えることができる。【思考・判断・表現】・自身の活動についてレポートにまとめることができる。	○	○	○	
	第6章 食生活をつくる 1節 日本の食文化の形成 2節 私たちの食生活 3節 栄養と食品の関わり 【知識・技能】日本の食文化について、成り立ちや特徴を理解できる。食事の意義や役割、食生活をとりまく環境などについて、現代の食生活の課題が理解できる。栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術を身につけ、それを実際の食生活に生かすことができる。 【思考・判断・表現】・自分の地域の郷土料理について、歴史や料理の作り方を調べてまとめることができる。 ・自分の地域の郷土料理と他の地域の郷土料理を比較し、違いを自分の言葉で表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】自分自身の食生活について関心を持つとともに、自分や家族の食生活について意欲的に改善・向上に努めようとする。食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点を持って、知識を深めようとしている。	1節 日本の食文化の形成 ・日本の食文化の成り立ちを理解する。 ・和食の特徴を理解する。 2節 私たちの食生活 ・自身の食生活の現状把握と今後の課題を理解する。 ・健康で豊かな食生活をはぐくむための気づきや工夫を理解する。 3節 栄養と食品のかかわり ・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身につける。	第6章 食生活をつくる 1節 日本の食文化の形成 2節 私たちの食生活 3節 栄養と食品の関わり 【知識・技能】日本の食文化について、成り立ちや特徴を理解できる。食事の意義や役割、食生活をとりまく環境などについて、現代の食生活の課題が理解できる。栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術を身につけ、それを実際の食生活に生かすことができる。 【思考・判断・表現】・自分の地域の郷土料理について、歴史や料理の作り方を調べてまとめることができる。 ・自分の地域の郷土料理と他の地域の郷土料理を比較し、違いを自分の言葉で表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】自分自身の食生活について関心を持つとともに、自分や家族の食生活について意欲的に改善・向上に努めようとする。食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点を持って、知識を深めようとしている。	○	○	○	10

2 学 期	第3章 子どもとかかわる 【知識・技能】子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。子どもとの接し方、子どもの衣食住にかかわる物づくりなどの技術を身につけている。生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。 【思考力、判断力、表現力】子どもの心身の発達、現在の子どもの取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。・子どもとふれあう体験学習や、実践活動などについて、目的の設定、体験学習中の判断や学習後の考察などをまとめることができ、また、体験学習の成果や反省などについて、レポートを通して表現することができる。 ・準備、実施、考察・反省まで、体験学習の一連の学習内容をまとめることができる。 【学びに向かう力、主体性】家族、家庭生活に関する法律について関心を持ち、家庭生活と法律との関係について、理解をしようとしている。子どもとふれあう体験学習や、子どものためのおもちゃづくり、お菓子づくりなどの実践活動に、積極的に参加し、子どもの発達の様子や生活に興味・関心を持つようとしている。	1節 子どもとは ・青年期の健康を学ぶことで、次世代を担う子どもを育て、はぐくんでいくことの責任感を養う。・子どもの発達について考える。・子どものころを振り返ることで、基本的生活習慣や社会的な生活習慣の身につけ方を学ぶ。 ・子どもの食生活・衣生活、安全管理について学び、子どもとかかわれるようにする。 ・絵本づくりや読み聞かせを通して、子どもの遊びの意義や課題について考える。 ・子どものからだの成長のようすを学ぶ。 ・子どもの感じ方についての例を出しあう。	第3章 子どもとかかわる 【知識・技能】子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。子どもとの接し方、子どもの衣食住にかかわる物づくりなどの技術を身につけている。生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。 【思考力、判断力、表現力】子どもの心身の発達、現在の子どもの取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。・子どもとふれあう体験学習や、実践活動などについて、目的の設定、体験学習中の判断や学習後の考察などをまとめることができ、また、体験学習の成果や反省などについて、レポートを通して表現することができる。 ・準備、実施、考察・反省まで、体験学習の一連の学習内容をまとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】家族、家庭生活に関する法律について関心を持ち、家庭生活と法律との関係について、理解をしようとしている。子どもとふれあう体験学習や、子どものためのおもちゃづくり、お菓子づくりなどの実践活動に、積極的に参加し、子どもの発達の様子や生活に興味・関心を持つようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	第4章 高齢者とかかわる【知識・技能】高齢化社会の現状や課題について情報収集、調査・研究をし、課題解決に向けて考えをまとめることができる。・認知症の高齢者と接するときに必要な心がけを理解している。 ・介助技術や車椅子の扱い方を理解している。【思考・判断・表現】高齢化社会の課題やその解決に向けて、新聞記事などを収集し・分析する課程において、課題の発見、解決の方向を導き出すことができる。・高齢化社会の現状や高齢者の生活を知ることにより、高齢者の自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。 ・高齢者へのインタビューなどで高齢者を知り、高齢者とかかわることで、高齢社会に関する課題を導き出すことができ、それをレポートなどで表現することができる。	1節 高齢社会を生きる 2節 高齢者を知る 3節 高齢者の自立を支える・これまでの高齢者とかかわり方を振り返る。・高齢者についてのイメージをまとめる。 ・高齢者の生活場면을体験する。 ・高齢者と家族とかかわり、経済、社会での活躍などを知り、高齢者における生活の課題について考える。 ・高齢化社会の現状を知り、身近な問題としてとらえる。・要介護の高齢者とかかわり方を考える。 ・高齢期の生活を健康に過ごすための心がけについて考える。 ・日常生活の介助を体験する。	第4章 高齢者とかかわる 【知識・技能】高齢化社会の現状や課題について情報収集、調査・研究をし、課題解決に向けて考えをまとめることができる。・認知症の高齢者と接するときに必要な心がけを理解している。 ・介助技術や車椅子の扱い方を理解している。 【思考・判断・表現】高齢化社会の課題やその解決に向けて、新聞記事などを収集し・分析する課程において、課題の発見、解決の方向を導き出すことができる。・高齢化社会の現状や高齢者の生活を知ることにより、高齢者の自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。 ・高齢者へのインタビューなどで高齢者を知り、高齢者とかかわることで、高齢社会に関する課題を導き出すことができ、それをレポートなどで表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】高齢化社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活について積極的に知り、高齢者とかかわろうとしている。	○	○	○	10

3 学 期	第8章 住生活をつくる【知識・技能】・住まいの役割・機能について、地域の特性などをふまえて調査・研究ができる。日本独特の生活様式と、それに伴う住まいの特徴を理解している。住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係について理解している。日照・日射・採光・照明、通気・換気、冷暖房など、健康的な住まい環境における基本的な知識が理解できる。また、住まいの清掃やメンテナンスについても理解し、快適な生活につなげることができる。【思考力・判断力・表現力等】現代のライフスタイルやライフステージに応じた住まいについて考えることができる。ライフステージと住空間の設計の関係、住環境について考えを深めることができる。【学びに向かう力、人間性等】住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心を持ち、快適な住まいづくり、よりよい住生活の創造に向けて意欲的に取り組もうとする。	1 節 人間と住まい 2 節 住まいの文化 3 節 住まいを計画する 4 節 健康に配慮した快適な室内環境 5 節 安全な住まい	第8章 住生活をつくる【知識・技能】・住まいの役割・機能について、地域の特性などをふまえて調査・研究ができる。日本独特の生活様式と、それに伴う住まいの特徴を理解している。住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係について理解している。日照・日射・採光・照明、通気・換気、冷暖房など、健康的な住まい環境における基本的な知識が理解できる。また、住まいの清掃やメンテナンスについても理解し、快適な生活につなげることができる。【思考力・判断力・表現力等】現代のライフスタイルやライフステージに応じた住まいについて考えることができる。【学びに向かう力、人間性等】住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心を持ち、快適な住まいづくり、よりよい住生活の創造に向けて意欲的に取り組もうとする。	○	○	○	4
	第9章 消費行動を考える【知識・技能】消費行動について、さまざまな情報を収集しながら、自分の消費行動について検証することができる。消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身につけている。【思考力、判断力、表現力等】消費行動における意思決定の過程について、具体的な事例を通して主体的に考え、判断することができる。多様化する販売方法や支払い方法について、問題点や解決策を考え、判断することができる。【学びに向かう力、人間性等】自分が一消費者であることを自覚し、物・サービスの購入のあり方や、消費行動、消費と環境とのかかわりについて積極的に理解しようとする。	1 節 消費行動と意思決定 2 節 消費生活の現状と課題 ・消費行動において、意思決定のプロセスが重要であることを認識する。 ・情報リテラシーを身につける大切さを理解する。	【知識・技能】消費行動について、さまざまな情報を収集しながら、自分の消費行動について検証することができる。消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身につけている。【思考力、判断力、表現力等】消費行動における意思決定の過程について、具体的な事例を通して主体的に考え、判断することができる。多様化する販売方法や支払い方法について、問題点や解決策を考え、判断することができる。【学びに向かう力、人間性等】自分が一消費者であることを自覚し、物・サービスの購入のあり方や、消費行動、消費と環境とのかかわりについて積極的に理解しようとする。	○	○	○	4
							合計
							70